



森林ふれあい情報

国民の森林・国有林

平成20年11月

第9号

中部森林管理局木曽森林環境保全ふれあいセンター

〒399-0001 長野県木曽郡木曽町福島5471-1

TEL: 0264(22)2122 FAX: 0264(21)3151

E-mail: kiso-fureai@rinya.maff.go.jp

高山植物の植生復元

9月18日(木)、木曽駒ヶ岳から伊那前岳を結ぶ稜線の登山道沿い、約210㎡にボランティアを含む総勢三十名が協力し、踏み荒らし等により高山植生が荒廃した箇所に繊維マットの敷設作業を実施しました。

当日は、朝から台風13号の影響により雨降りという最悪のコンディションとなりましたが、幸い作業を行うときには、稜線沿いにしては風もなく、雨も小降りとなり予定した時間内に全ての作業を終了することが出来ました。

参加者からは、作業箇所の拡大や作業の内容や成果についてもっと積極的なPRが必要ではないか等の意見が出されました



繊維マット敷設状況

自然観察では、森林鉄道に乗車した後赤沢自然休養林内をインストラクターの案内により散策し、森林浴を楽しみ、また、間伐作業では、鋸を使用しての伐倒、玉切り等に苦労していた様子ですが、爽やかな秋の風が吹く中、心地よい汗を流していました。



間伐に汗を流す参加者

間伐を実施している間、子供達はドングリや木の枝等を使い、思い思いにモックンやペンダント等の作成を楽しみ、完成した製品を持ち寄って自慢し合っていました。



親子でクラフト作成

「木曽川・森づくりin 赤沢」を実施

9月27日、木曽郡上松町の赤沢自然休養林内等において、木曽川上・下流域の住民、森林ボランティア団体及びスタッフ総勢八十数名が参加して、「木曽川・森づくりin 赤沢」が実施しました。

前日まで、木曽地区では大雨・洪水注意報が出るほどの悪天候でしたが、当日は朝から日が差す良い天気恵まれ、自然観察、間伐作業(子供はクラフト作成)を行いました。



わぁ大きい。全然手が届かない・・・

平成17年度から開催しているこのイベントも、本年度で第4回目となりましたが、リピーターも徐々に増え、複数回参加していただいている参加者もありました。また、「来年も是非参加したい。」との声も聞かれました。

グリーンボランティア・サミットを実施

10月17～18日、長野県の菅平高原において、管内四県の国有林・民有林で活動している森林ボランティア団体が集う「グリーンボランティア・サミット」を開催しました。

このサミットは、ワークショップの体験学習、活動報告や意見交換等を通じ、ボランティア団体の資質の向上と国民参加の森林づくり、森林環境教育の

一層の推進を図ることを目的としています。

今年で4回目となりますが、森林ボランティア23団体・56名及び局署等職員合わせて総勢77名の参加者を得て、両日とも秋晴れの中、充実した内容で行われました。

1日目は、事例報告会と意見交換会を行い、開催地の東信地方で活躍している様々の立場のボランティア四団体、①「上小木青連」②「NPO法人根っこの会」③「倶楽部井戸端」④「NPO法人やまぼうし自然学校」から活動内容や問題点などを、特別発表として、「長野大学」環境ツーリズム学部の高橋一秋准教授と入門ゼミナールの学生から大学構内の「恵みの森」(約3.6ha)を舞台に展開されている「恵みの森再生プロジェクト」の取組内容や活動、成果などを、映像を用いて発表、続いて活発な意見交換がなされました。



長野大学による特別発表の様子

参加者からは、「それぞれの立場で頑張っている様子に感銘した」、「今後の活動に生かす色々なヒントを頂いた」などと感想が寄せられ、また、活動を継続していくための資金確保が最大の問題と述べられました。

2日目は、3つのワークショップに別れ体験学習を行った後、全員で「人間椅子」に挑戦し、協力の輪を醸成して閉会となり、2日間のサミットを通じて、各団体間の連携が更に深まりました。



ミニチュアハウス作成

終わりに、前年度からボランティア団体主導の実行委員会による企画・運営での開催となり、今回は長野県の「NPO法人やまぼうし自然学校」(上田市)と「城山史跡の森倶楽部」(木曽町)の二団体が担当、多くの時間を要しての事前準備や当日の運営にご苦勞頂いたことに対し、感謝申し上げる次第です。



協力の輪「人間椅子」

小鳥の巣箱清掃・点検を実施

城山史跡の森倶楽部の会員と当センターの職員が参加して、今年度同倶楽部が計画している事業の一つである、小鳥の巣箱清掃・点検を11月18日に城山史跡の森において実施しました。

今回は、昨年12月に掛けた巣箱を、40個ほど清掃・点検しましたが、営巣したと思われる巣は約40%確認され、参加者からは「昨年実施したときよりも、多くの営巣が確認された。」との声も聞かれました。



巣箱点検の様子

ここ城山史跡の森では、毎年、野鳥観察会も実施していますが、同倶楽部の地道な整備活動等により、野鳥の営巣、飛来が年々増加し、これから野鳥の活動時期となれば、ハイキング等に訪れる方々に小鳥の可愛らしいさえずりを聞いていただけることと思います。



ヤマガラと思われる営巣痕